

新宮山彦ぐるーぷ第1908回  
公益財団法人・社会貢献支援財団の

第47回社会貢献者表彰式典

◇実施日；平成28年11月27日(日)～28日(月)

◇参加者；山上皓一郎、川島 功、沖崎吉信、梶野照雄、

伊賀敷洋一・晴江ご夫妻(28日)。 6名。

社会貢献者表彰とは、広く社会のために、困難な状況の中で黙々と努力し、人々の安寧と幸福のために尽くされて、顕著な功績をあげながら報われる機会が少ない方々の、その功績に感謝し労い活動を支援する表彰です。

この度、昨年玉岡憲明氏の緑綬褒章でご尽力頂いた和歌山県からの推薦で選考書類を提出して頂き、8月09日に社会貢献支援財団の天城 一専務理事が、行仙宿へ審査下見に来宿来新されました。

財団から9月5日付けで受賞決定の通知があり、10月26日推薦した和歌山県から受賞発表があり、地元紙に受賞が報じられ、11月4日に社会貢献支援財団が正式に173件から79件の受賞が決まり、「社会貢献の功績」団体36件、個人15件の計51件の受賞者が発表されました。尚、「人名救助の功績」と「社会貢献の功績で海外に関わる」28件は、来年7月に表彰。

受賞者は、帝国ホテル東京・孔雀の間で執り行われる27日18時からの受賞者懇談会、28日の表彰式典に出席することとなる。出席にあたり、一受賞4名分の帝国ホテル宿泊費・旅費は、財団が全額負担。式典のみ参加の招待者は、一受賞者につき30名まで参加可能(負担無)で、9月末まで事前報告し招待状が發送される。

玉岡さんには是非参加して欲しいとお願いしたが、体調の不安か

ら固辞され、又新宮地区で世話人等の主だった人に表彰式典への参加要請をしたが断られ、当ぐるーぷから山上・川島・沖崎・梶野、招待者として神奈川県大和市の伊賀敷ご夫妻が表彰式典に参加する事になる。

11月27日(日) 18時～ 受賞者懇談会

新宮発9時13分発の列車に乗り、名古屋(新幹線)で梶野氏と合流し、東京駅14時33分着。山の手線に乗換え有楽町駅で降り、雨も降っていない帝国ホテル東京まで300m程歩き15時着。

帝国ホテルのフロント前には、もう受賞者懇談会への出席者が並んでいる、沖崎氏も並んで手続きを終え、帝国ホテル客室タワーの21階ツインルームには、喫煙の沖崎・梶野、非喫煙の山上・川島に分かれて15時半頃に各ルームに入る。



帝国ホテル正面玄関

正面玄関フロアー

フロントで宿泊手続き

16時半から表彰状授与の登壇者川島は、式典当日会場スクリーンに投影する顔写真撮影のため、本館5階カンファレンスルームAに行く。撮影待ちの方は二人で、程なく正面・左右半身から、パチパチと何枚も撮られたが、10分程で沖崎・梶野氏のルームに戻り集まる。

梶野氏は、付近散策と言って出かけたが、雨が降って来たと戻る。

17時を過ぎると、沖崎氏のルーム(2116)からは、点灯した東京タワーが一層良く見える様になる。



東京タワー背景に



懇談会会場に着席



天城一専務理事の挨拶

17時半過ぎに部屋を出て、今後泊る事のないホテル内を見て歩き、18時から本館2階・孔雀の間西で受付を済ませ、テーブル⑫に着席、同じテーブルに「大山の頂上を保護する会(鳥取県)」が同席。⑬テーブル約150名が参席した。

18時30分から社会貢献支財団の天城一専務理事の挨拶後、各受賞者は、1分以内で自己紹介する様に事前連絡されているが、いざ発表すると守られず時間が過ぎ、空腹も重なり愚痴の一つも出て来る。

35番の当ぐるーぷは、「私達は、和歌山県新宮市で昭和49年に山を歩いて自然に親しみ、体験を通してモノを考えようという趣旨で発足し、現在、会員数約50名の自然保護団体です。

紀伊半島を縦断する大峯山脈南部が藪に覆われていて、昭和59年から大峯南奥駈道をよみがえらせ、後世に伝えようと約45kmの尾根道を刈拓き、安全に歩けるよう山小屋3棟を建て管理すると共に、自然環境・文化的景観の保護・保全に、これまで32年にわたり1600回以上の環境整備に取り組んで来ました。今後とも

宜しくお願ひします」と自己紹介した。

51件の発表を終え、夕食会(バイキング)は15分遅れの19時45分から乾杯で開宴となった。今後は、鈴で1分オーバー1鈴、1分半で2鈴と合図するべきだと思った。



大山の頂上を保護する会と

天城専務理事と写す

有楽町駅ガード下にて

同席した「大山の頂上を保護する会」の方達と名刺交換して「大山へ行くわ!」「おお来て!」「南奥駈道へ来てよ!」などと懇親を深めることが出来た。翌日「大山」の本を贈呈された。

20時30分に終了となり、帰り際に天城専務理事とお逢い出来、お礼と再会を祝して記念撮影。(天城様に40年の記録誌謹呈) 部屋の缶ビールは700円と高額で21時前であり、地下の食事街に行くと、「なだ方」「吉兆」などの高級店が多く、我々の身では入れない、地上に戻ると小雨が降っている。

ホテル裏側に出ると、赤提灯が見えそこへ行くと、有楽町駅ガード下の飲み屋ストリートで、その一軒で二次会となる。

日曜日で混雑していて外人客が結構来ている。だが我々正装組は浮いている様に思えた、共同トイレに行き戻るのに一苦労だ。

帰り際に注文した「だし巻き卵焼き」が遅れて出てくる、沖崎氏の裏の席に若い女性3人と男性外人1人組が座り「良かった



ら食べて」と差し入れ。熊野三山や那智の滝周辺から来たと言っても知らないでは話しが弾まない・・・。10時30分に部屋に戻りボタンきゅーと就寝。

### 11月28日(月) 社会貢献者表彰式典

朝7時から朝食と決めていたので6時頃に起きる。

朝食は3カ所で在り、本館8階の和洋食バイキングか「なだ万」和定食のどちらかであり、昨夜入れなかった「なだ万」へ。

7時に店の前へ行くと入店待ちだ！ 30分待つそうだが、どうする・・・、待ちリストに名前を書いた。5分程で店内に入れ食事が出来た。(メニューには3,400円)

受賞登壇者は、8時15分厳守で本館2階・孔雀の間での式典リハーサル、集合写真、個別の記念撮影(屏風前)がある。

個別記念撮影では、皆で撮影可とのことから、後で来て一緒に撮ろうと言ったが、何時か判らず9時半頃に受付すると部屋へ。

式典リハーサルは、登壇し賞状を拝受し13人が後ろに整列し、拍手でお辞儀をして壇上から降りる繰返しが4回あるが、3回目に登壇して式典リハーサル後、個別の記念撮影場所の孔雀の間前の金屏風前で撮影、多くの受賞者は同伴者と撮影されていた。



「なだ万」朝食



受賞者集合写真



式典控室にて

9時20頃より安倍内閣総理大臣夫人・安倍昭恵会長も同席して集合写真撮影となり、当ぐるーぷ3人も受付を済ませ集合写真を撮って下さる。その後スタンバイ。

10時前になり伊賀敷ご夫妻も来場され、金屏風前で当ぐるーぷ参加者の記念撮影。

10時15まで控室で待機。10時30分より表彰式が開式。受賞者は、舞台袖より13人ずつ登壇整列し、拍手でお辞儀をして指定椅子に座る。

表彰式典は、内閣府、総務省・外務省・文部科学省などの後援の下、約600名が参席し、式典次第により安倍昭恵会長の挨拶、「瑤子女王殿下おことば」になっていましたが、三笠宮家は喪に服されていてご欠席、内館牧子表彰選考委員より厳正な審査経過等の挨拶後、各受賞者が登壇して安倍昭恵会長より表彰状授与並びに副賞の日本財団賞50万円の贈呈(当日、口座振込)を受けました。

表彰状授与の時には、登壇者の顔写真及び提供した活動写真(行仙岳北面段差修復、熊野修験接待等の写真)がスクリーンに投影された。



当ぐるーぷ参加者



安倍昭恵会長挨拶



内館牧子選考委員長挨拶



安倍昭恵会長より当るるーぶに表彰状授与

賞状授与後ので整列



安倍昭恵会長と記念撮影

田中さんから花束贈呈

表彰状を囲んで

12時10頃に式典が終了した。祝賀会入場前に控えていると、「受賞おめでとうございます」と言葉を掛けられ、名刺から和歌山県東京事務所長の田嶋久嗣様からでした。むしろ、この度の受賞は、和歌山県から推薦の選考書類を提出して下さったお陰であり、こちらが御礼申し上げなければなりません。本当に有難うございました。

12時40分より祝賀会となり、受賞者は拍手に迎えられて入場し壇上の周りに集まる。来賓の日本財団・笹川陽平会長の祝辞と乾杯のご発声で開宴した。



笹川陽平会長の祝辞

祝賀会会場にて

祝宴会場へ熊野修験参加の六本木にお住まいの映画監督・田中千世子さんが、新聞で受賞を知ったと、花束を持参してお祝に馳せ参じて山上さんに贈呈して下さい。

安倍昭恵会長を囲んでの記念撮影は、順番制で長蛇の列になりあきらめていたが、列も少なくなり並んで当るるーぶとの記念撮影をさせて頂き、気軽に名刺交換させて頂いた。

会長は、略祝賀会が終わるまで、参加者の要望に応じて撮影に協力されており、驚きとともに感嘆した。

13時40頃に流れ解散となり、受付で賞状・など万の赤飯弁当・紅白の上用饅頭2ヶ入り箱を4名分頂いた。

賞状を囲んで屏風前で記念撮影を済ませ、伊賀敷さんのご案内で日本橋・高島屋へタクシーで移動し、帰宅新幹線時刻調整にコピー等にて談笑。

この高島屋の建物は重要文化財だそうで、エレベーターガールの案内係が就いていて大都会を痛感する。

東京駅まで歩いて誘導して頂き、16時10分伊賀敷ご夫妻と別れた。

東京発16時40分の新幹線に乗り、23時23分無事帰新。

最後に、この度、格式と栄えある社会貢献者表彰受賞によって、当てる一歩の永年の地道な活動が高く評価されると共に広く認知され、また昭和46年からの受賞者リストに名を連ねる事になり、光栄な事であり大変嬉しく、今後の活動の励みになりました。

はからずも表彰に登壇させて頂く事になり、ひとえにこれまで玉岡憲明前世話人代表並びに先輩諸兄が南奥駆道の道普請に汗水を流し奉仕協力して下さったお陰であり、衷心より御礼と感謝を申し上げます。

又、伊賀敷ご夫妻には、多忙のなか一日お付き合ひ下さり、本当にありがとうございます。

(写真：山上・梶野・川島。 記：川島)